

子宮頸がんワクチンについて

子宮頸がんの現状

子宮頸がんは性行為によってヒトパピローマウイルスが子宮に感染することで起こります。日本では、**毎年約 1 万人が子宮頸がんにかかり、約 3 千人が命を落としています**。子宮頸がんにかかる人の割合は日本では増えており、20~30 歳代の女性で特に多くなっています。**子宮頸がんワクチンは咽頭がん、その他の陰部のがんや、コンジローマというイボができる病気なども防ぐことができ、現在では先進国の多くで男女ともに定期接種となっています。世界中の大多数の専門家は子宮頸がんワクチンの接種を勧めています。**

子宮頸がんワクチンの効果と副作用

子宮頸がんはワクチンによる予防がとても効果的です。2020 年 10 月のスウェーデンからの報告では子宮頸がんワクチンを接種しない場合と比較して、**子宮頸がんワクチンを 17 歳までに接種すると子宮頸がんの発生率が 88%減少し、17 歳から 30 歳までに接種すると子宮頸がんの発生率が 53%減少**しています[1]。しかし、日本では子宮頸がんワクチンを打った後に強い痛みやしびれなどの神経の症状がでたという事例がメディアから報道され、厚生労働省が積極的な推奨を差し控えています。その後、多くの検証がされ、子宮頸がんワクチンを打っていない人でも、他の原因で強い痛みやしびれなどの症状が起こることがあり、ワクチンを打っても打たなくてもその確率は変わらないといわれています。

ワクチン接種後に因果関係に関わらず何らかの症状が出たと報告されたのは接種 10 万回あたり 90.6 でした [2]。そのうち迷走神経反射やごく短期の疼痛などを除いて、ワクチン接種後に何らかの症状が持続した人は 10 万人当たり 22.9 でした。

別の調査では、子宮頸がんワクチン接種後に持続する症状があったとする人は 10 万人あたり 27.8、子宮頸がんワクチンをまったく打っていない人で同様の期間に同様の持続する症状を訴えた人は 10 万人当たり 20.4 でした[3]。(この研究は後ろ向き研究であるために、ワクチンの打った人の方が持続する症状をよく覚えている可能性があり、ワクチンを接種した人での症状発生率が高めに見積もられている可能性があります。)

2018 年に発表された名古屋の大規模調査では子宮頸がんワクチンを打った人は打っていない人に比べ、何らかの症状を感じる割合は増えないという結果でした[4]。

子宮頸がん生涯でかかる確率は女性 10 万人あたり約 600-850 人で、子宮頸がんで亡くなる確率は女性 10 万人あたり約 150-200 人です[5]。

子宮頸がんワクチンの効果とリスクを生涯の QOL レベルの変化として表すと、仮にワクチン接種後の症状が接種と因果関係があると仮定しても、日本での子宮頸がん**ワクチン接種の効果は接種のリスクよりも 64 倍大きい**となっています[6]。

接種対象者とその家族への情報提供

子宮頸がんワクチンの効果とリスクを記載・説明（両論併記）するだけでは、ほとんどの接種対象者や保護者は接種を前向きに検討しにくく、接種の意思決定が難しいといわれています[5,7,8]。

保護者の子宮頸がんワクチン接種への意思決定で最も重要なものは、**医療従事者から直接の説明を受ける**こととなっています[9]。**子宮頸がんワクチンの副作用が起こるリスクよりワクチンで子宮頸がんを防ぐ効果の方が圧倒的に大きいこと**、その上で対象者には**子宮頸がんワクチン接種を勧めている**と説明することは、接種対象者や保護者の接種への前向きな考えにつながります[9]。また国内の各学会は対象者への積極的な子宮頸がんワクチン接種を推奨しています[10-13]。

参考文献

1. Lei J, Ploner A, Elfström KM, Wang J, Roth A, Fang F, et al. HPV Vaccination and the Risk of Invasive Cervical Cancer. *N Engl J Med.* 2020 Oct 1;383(14):1340-1348.
2. 厚生労働省 副反応追跡調査結果について https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/chousa/dl/160212_02.pdf
3. 厚生労働省 子宮頸がんワクチンの有効性と安全性の評価に関する研究 <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10601000-Daijinkanboukouseikagakuka-Kouseikagakuka/0000147016.pdf>
4. S. Suzuki, A. Hosono. No association between HPV vaccine and reported post-vaccination symptoms in Japanese young women: results of the Nagoya study. *Papillomavirus Res*, 5 (2018 Jun), pp. 96-103
5. 厚生労働省 医療従事者の方へ HPV ワクチンの接種に当たって <https://www.mhlw.go.jp/content/000679265.pdf>
6. Kitano T. Stopping the HPV vaccine crisis in Japan: Quantifying the benefits and risks of HPV vaccination in quality-adjusted life-years for appropriate decision-making. *J Infect Chemother.* 2020 Mar;26(3):225-230
7. Shiomi M, Ueda Y, Abe H, Yagi A, Sakiyama K, Kimura T, et al, A survey of Japanese mothers on the effectiveness of the Ministry of Health, Labor and Welfare's revised HPV vaccine leaflet. *Hum Vaccin Immunother.* 2020 Oct 2;16(10):2555-2558.
8. Yagi A, Ueda Y, Masuda T, Ikeda S, Miyatake T, Nakagawa S, et al. Japanese Mothers' Intention to HPV Vaccinate Their Daughters: How Has It Changed over Time Because of the Prolonged Suspension of the Governmental Recommendation? *Vaccines (Basel).* 2020 Sep 3;8(3):502.
9. Mizumachi K, Aoki H, Kitano T, Onishi T, Takeyama M, Shima M. How to recover lost vaccine acceptance? A multi-center survey on HPV vaccine acceptance in Japan. *J Infect Chemother.* 2020 Oct 27:S1341-321X(20)30371-8.

10. 予防接種推進協議会 ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）接種推進に向けた関連学術団体の見解
http://www.kansensho.or.jp/uploads/files/news/gakkai/HPV_vaccine_160418.pdf
11. 日本小児科学会 ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）接種推進に向けた関連学術団体の見解（予防接種推進専門協議会）
https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20160418_HPВ.pdf
12. 日本産婦人科学会 子宮頸がん と HPV ワクチンに関する正しい理解のために
http://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=4
13. 日本外来小児科学会 HPV ワクチン接種を勧めましょう
https://www.gairai-shounika.jp/activity/unei/yobo_sesshu/HPV_vaccine.pdf

文責 奈良県立医科大学 小児科 大西智子、武山雅博
The Hospital for Sick Children, Canada 感染症科 北野 泰斗
2021.2.15